

(様式1)

平成23年度京都府立宇治支援学校経営計画（スクールマネージメントプラン）

京都府立宇治支援学校

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>京都府の特別支援教育を牽引し、地域社会におけるノーマライゼーションを推進する学校として以下の方針に基づいた学校経営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育理念「喜びはともにあること」の下、教育目標「自律」を達成するための教育を全ての学部において行う。 ○ 地域社会の中にある学校として、地域と連携し、地域に役立つ学校を目指す。 ○ 京都府スーパーサポートセンターの機能を生かし、各地域支援センター、総合教育センター等と連携し、京都府内全域の特別支援教育を進展する。 		<p>開校初年度として、以下の重点を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 地域社会と連携した事業、授業の計画的実施 地域学習の実施、カフェ JOY の経営 ▼ 児童生徒の安心・安全を実現する学校経営 ▼ 京都府スーパーサポートセンターの周知及び役立ち感の促進

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題	
			前期	後期	全体		
組織・運営	研教修職員	・ 医療専門職派遣事業等の活用による外部人材の活用	B	B	B	<p>校内研修会は、40回を越え、月平均約4回以上の実施状況。ニーズに応じて、内容、参加対象を工夫し、実践・授業改善に資することを最重視してきた。外部人材をテーマに応じて活用し（19回実施）、講義形式だけでなく、実技・実践とおして研修を深めることができた。</p> <p>4月以降のHP更新は、月平均約10回を数える。情報を更新の即時性だけでなく、本校の理念を具体化する情報を発信し、新しい学校の広報に大きな貢献があった。視察・見学受入は、府内のみならず他府県からも多く、年間50回以上となった。本校の情報発信に努めてきた。後期には、地域清掃を実施し、校内での取組を確認する機会となった。</p> <p>S S C開設初年度にあたり、府内全域からの「依頼に応じた相談支援」を各特別支援学校、各関係機関との連携の上に丁寧に進め、府の重層的な相談支援体制の中核的役割を果たしてきた。また、今日性があり、実践に生かせる研修を計画的に実施してきた。</p> <p>地域支援センターうじは、各市の状況に応じた連携の上に、日常に生かせる支援の提案に努めた。</p> <p>学校公開日を、授業のステップアップの節目として捉え、授業を改善していくスタイルが定着した。外部評価は、関係者評価（保護者アンケート）及び自己評価を踏まえ、専門的な立場から第三者評価をいただき、学校評議員会議により取りまとめるスタイルで実施。今後も常に外部からの評価を得て、多面的に学校経営を改</p>	
		・ ニーズに基づいた研修会の企画実施（10回／年 以上）	A	A	A		
		・ 計画的な研修会等への派遣	B	C	C		
	地域貢献・情報発信	・ HP等による多角的な学校情報の発信	・ HPによる積極的情報発信（更新 5回／月 以上）	A	A		A
			・ 学校見学の積極的な受け入れ	A	A		A
		・ 地域に貢献する授業の実施	・ 地域清掃等の地域貢献型授業の実施	C	B		B
	地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府スーパーサポートセンターによる研修会及び相談支援の実施 ・ 地域支援センターうじによる巡回相談の実施 ・ 宇治市・城陽市と連携したネットワークの形成 	・ リーフレット発行、HPによる情報発信	B	B		B
			・ スーパーサポートチームを活用した相談支援	B	B		B
			・ S S C研修会の計画実施（10回／年 以上）	B	B		B
			・ 連携協議会の開催（2回／年 以上）	B	B		B
	学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者、地域住民による学校評価の実施 ・ 学校評議員を活用した外部評価の実施 	・ 学校公開日の計画的実施（1回／月）	B	B		B
			・ アンケート等による「学校満足度調査」の実施及び公開（2回／年 以上）	B	B		B

			・学校評議員会議の開催（3回/年 以上）	B	B	B	善する仕組を継続する必要がある。
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> 公開避難訓練の実施 医療的ケアの安全実施 	・公開避難訓練の計画的実施（2回/年 以上）	B	B	B	<p>公開避難訓練を2回計画的に実施した。今後も多様な想定による訓練を実施するとともに、日常的な防災教育に心がける必要がある。医療的ケアについては、大きな事故なく実施することができたことは成果であるが、制度の移行に伴い、より丁寧に緻密な対応を組織的に進めることが求められる。</p>	
		・実施マニュアルに基づく毎日のケアの実施	B	B	B		
		・緊急時対応訓練の実施（2回/年 以上）	C	B	C		
		・登下校指導の実施	B	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	全体	
教育課程・学習指導	質の高い授業	・各学部の創意工夫に基づいた地域学習の実施	B	B	B	具体的な地域学習の姿が見えてきているところである。今後は、学習ニーズにあった吟味と系統化が必要である。
		・P D C Aサイクルに基づく実践評価	B	B	B	S S Cと連携し、初任者研と連動させたO J Tによる授業研究を実施。その過程に学びがあったが、今後は学校全体に拡充する必要がある。
		・全ての教育活動における自立活動の推進	C	B	B	個別の指導計画の確実性・具体性を高めながら、授業との関連を強め、授業を改善し、保護者連携のためのツールとすることが必要。
		・学習指導要領に基づいた全ての児童生徒を対象とした自立活動の実践	C	B	B	担任が全ての教育活動をとおして指導する本校のスタイルが、漸く実践に反映されてきた。今後の定着と深化が望まれる。
	職業教育・キャリア教育	・組織的な企業開拓の実施	C	B	C	情報収集に留まった。
		・各コースにおける希望進路の実現（企業就労 5名以上）	B	B	B	保護者、関係機関と連携し、進路希望を踏まえた進路相談から見学及び体験実習を実施してきた。地域関係機関とのネットワークを広げ、必要な情報を保護者に提供する機会を得た。
		・個別の教育支援計画に基づいた進路指導の実施				
		・ものづくり、サービスを一体化させた宇治支援独自の作業学習、職業教育の実施	B	B	B	高等部における宇治支援学校の作業学習スタイルがほぼ確立し、モデルとなりながら全校を牽引してきた。
・来客者を対象とした、モニタリングの実施	C	C	C	未実施。		

改善の方向性	<p>次年度に向けた</p> <p>【教育目標「自律」を実現する特別支援教育の更なる推進】</p> <p>○各教科等を合わせた指導を中核とした授業の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S S Cとの連携による授業改善の推進 ・担任が指導する自立活動の更なる推進 ・学年制のメリットを生かした実践の積み上げ <p>○教職員の指導力の向上</p>	<p>○ノーマライゼーションを推進する地域学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラムの整理と系統化 <p>【S S Cによる、子どもと保護者に届く特別支援教育の更なる推進】</p> <p>○府内関係機関との信頼関係を強化し、役立ち感の実感を丁寧に確認しながら、活用の実効性を広げる取組を推進する。</p>